

地域のきずなを育む

本町第一町内会の取組み

地域での活動事例をご紹介

今回は、本町第一町内会の活動をご紹介させていただきます。

本町第一町内会では、ある会員さんの発案で、羽東二丁目の一角に子どもたちを中心とした「世代間交流の場」を作りました。発案者から寄稿いただいた内容を掲載させていただきます。

本町第一町内会の取組み

本町第一町内会では、代々にわたり、人と人とのつながり（地域のきずな）を大切に様々な年代、立場の方々が活躍されてきました。ところが、昨今、時代の変化に伴い地域のきずなが希薄になっているという状況をどの方も感じておられるのは事実です。このたびの東日本大震災での支援活動を契機に、人と人とのつながり（自治の精神）がいかに大切であるかを改めて認識しました。

煩

わしい（煩う）という言葉がありますが、人と人との付き合いは、正直、わずらわしさもあります。しかし、このわずらわしさを乗り越えて、地域の活動を通して共同・協同作業を繰り返し、積み重ねることにより、いざという時の「**本町のきずな**」が生まれると思います。

共に育つ

現在の会長さんをはじめ、役員の方々は、地域・社会をリードされ、様々な知恵を身に付けていると感じます。それは、おそらく幼少期におもいきり仲間と群れて遊んだ経験をお持ちの方が多いからなのではないでしょうか！

遊び

とは人間として成長するにあたり、大切な能力（様々な生きる力）を培うために必要な経験のことです。この経験があつてこそ、健全

な社会的人格（地域社会に貢献）は育つということが分かってきています。

遊び心は本来、誰にでも備わっているものです。ところが、それを発揮するには条件が必要不可欠となるのです。それは、遊びの三間といわれる『**時間・空間・仲間**』の三つです。

私たち、本町第一町内会では、こうした遊びの環境や土に触れ、農作物を作る体験（情操教育）を、タテ・ヨコ・ナメの世代間でできる環境を整えてあげたいとの思いから、世代間交流計画をつくり、羽村市の「ご理解・ご協力のもとスタートすることができました。

この世代間交流の場、名称『**ふれあい農園**』の活用は、まだまだこれからが本番！その可能性は未知数です。

五感をフルに使って仲間とおもいきり遊び込む！

そんな幼少期を過ごした子どもたちが、「人と人とのきずなを大切にし、次代を担い、未来を切り開く力強さを身に付けていく。」ことを願っています。

このふれあい農園でのモットーは、『**自分の責任で自由に遊ぶ**』です。



ご協力いただける 団体を募集します！

市民活動センターでは、地域の「きずな」を育むエピソードを募集しています。投稿いただいた内容は、順次この情報紙『きずな』でご紹介させていただきます。どんなささいなことでもかまいません。お気軽に市民活動センターまでご連絡ください。